

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400019		
法人名	医療法人伴帥会		
事業所名	グループホーム椿高野		
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙2314-5		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「その人らしい暮らしを続けるための支援」・入居者の時間の流れを大切にしています。談笑や触れ合いの中から自然な笑顔や言葉を引き出し、明るく温かい雰囲気の中で穏やかに過ごして頂けるよう支援しています。
 ・「スタッフの質の向上」・スタッフは全員が法人内の勉強会に参加し、興味のあることは外部の勉強会にも参加しています。研究発表にも積極的に取り組んでいます。
 ・「安心感のある環境」・母体の医療機関や、敷地内には老人保健施設もあり、緊急時の対応、相談体制、行事など法人内での連携が図れており、安心できる生活環境へとつながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春の時期になるとホームの庭にある桜が満開となり、入居者が笑顔で桜の花を愛でながら、楽しいひと時を過ごされる姿がある。近隣住民にもホームの敷地を開放し、地域とともに季節の花々を楽しんでいる。ホームは医療法人を母体とし、医療との連携が入居者や家族から安心感に繋がっている。関連施設の理学療法士等のセラピストによる入居者の身体状況に関する相談や状態に応じた機能訓練を実施している。職員は入居者とのコミュニケーションを大切にしたり、何気ない会話の中から入居者が発した言葉にも傾聴し、本人の意思の尊重に努めている。関連施設と連携しながら各種委員会を設置し、担当職員が参加したり、研修を受けるなど組織的な取り組みが窺える。食事は入居者と一緒に行きつけの味噌キッドを用いて味噌を作ったり、行事ごとに特別な食事を提供するなど食事が楽しみとなるよう取り組んでいる。入居者が楽しく明るく生活できる温かみのあるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	良質な介護を通じ、地域の安心・信頼・健康で豊かな生活の支援が法人としての理念である。年度初めに理念に沿った部署目標と個人目標を設定し、管理者と職員はスタッフ会議の場や研修の場においてその理念を共有し、実践につなげている。	良質な介護を通じ、地域の安心・信頼・健康で豊かな生活の支援が法人としての理念である。年度初めに理念に沿った部署目標と個人目標を設定し、管理者と職員はスタッフ会議の場や研修の場においてその理念を共有し、実践につなげている。	法人理念である「良質な介護を通じ、地域の安心・信頼・健康で豊かな生活の支援」の下、ホームの理念を掲げている。年度初めにはホームの目標及び職員の個人目標を立て、職員が目標に沿った支援の達成度や理念に沿った支援の実施状況をスタッフ会議や研修の場で共有し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設と共同開催の秋祭り実施、桜の花見場所の案内、防災時の避難場所、AED設置等、事業所は常に域とつながり、地域の為に開かれた場である。コロナ禍で地域との交流ができない状況であったが、ようやく近隣施設と合同で秋祭りを実施する事が出来、大変盛り上がった。	近隣施設と共同開催の秋祭り実施、桜の花見場所の案内、防災時の避難場所、AED設置等、事業所は常に域とつながり、地域の為に開かれた場である。コロナ禍で地域との交流ができない状況であったが、ようやく近隣施設と合同で秋祭りを実施する事が出来、大変盛り上がった。	運営推進会議メンバーである民生委員を通じて地域の現状等に関する情報収集や意見交換を行っている。花見の時期にはホームの敷地を地域住民に開放したり、台風時には地域の高齢者の避難受け入れを行う等、地域と繋がりながらホームの特性を活かした取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の老健と共同でSNSによる情報発信をしている。また、中学生の実習を受け入れ、グループホームとはどんな所か、認知症とはどんな病気かを説明するなど交流を持っている。ご家族からの介護相談があった場合にも実践に即した介護方法などをお伝えしている	併設の老健と共同でSNSによる情報発信をしている。また、中学生の実習を受け入れ、グループホームとはどんな所か、認知症とはどんな病気かを説明するなど交流を持っている。ご家族からの介護相談があった場合にも実践に即した介護方法などをお伝えしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組み状況については、わかりやすく画像等を利用して報告をしている。コロナ禍で書類開催が続いているため、電話等で近況を報告し、ご意見を頂いている。参加者様より頂いたご意見は、フィードバックしサービス向上に活かしている	運営推進会議では取り組み状況については、わかりやすく画像等を利用して報告をしている。コロナ禍で書類開催が続いているため、電話等で近況を報告し、ご意見を頂いている。参加者様より頂いたご意見は、フィードバックしサービス向上に活かしている	運営推進会議は民生委員や地域包括支援センター職員、家族代表が構成メンバーとなり、入居者の状況や研修受講内容、事故報告、ヒヤリハット等、ホームの現状を報告している。各メンバーから出された質問や意見等は議事録に残し必要に応じて入居者支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グルプホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グルプホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	島原広域圏介護保険課とは、不明な点は電話で相談する等常日頃より連絡を密にしている。各種協議会にも入会している。地域包括支援センター職員との相互訪問も行い協力関係を築いている	島原広域圏介護保険課とは、不明な点は電話で相談する等常日頃より連絡を密にしている。各種協議会にも入会している。地域包括支援センター職員との相互訪問も行い協力関係を築いている	管理者は地域包括支援センターへ運営推進会議の議事録を持参したり、空床状況の情報交換や、BCP作成進捗状況等について報告するなど日常的に協力関係を築いている。社会福祉協議会の案内で職員が研修會に参加する等、日頃から関係機関と連絡を取り合い協力体制の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	老健と共同の身体拘束適正化委員会を中心に、日頃より禁止行為を確認しながら、ケアを実践している。また、具体的な事例を委員会で相談するなどの体制も整っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止に関しては、日頃よりスタッフ間で確認をしながら日々のケアを行っており、全員が理解し実践している。また、老健と共同の身体拘束適正化委員会を中心に内部研修を行ない、全職員が参加し身体拘束について学び振り返る場がある。	毎月、同法人の介護老人保健施設と合同で身体拘束適正化委員会を開催している。ホームの担当職員が身体拘束適正化委員として参加した後、同委員会の記録や資料を他の職員に伝達している。また、委員会を中心として内部研修を開催して身体拘束や虐待について理解を深めながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適性化委員会を中心に、高齢者虐待防止法についても学ぶ機会を設けている。また接遇の自己チェックも行い、気づきや振り返りの機会を定期的に設けている。	身体拘束適正化委員会を中心に高齢者虐待防止法についても学ぶ機会を設けている。また、定期的に接遇の自己チェックも行ない、気づきや振り返りの機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に入居者の方に成年後見制度を受けていた方がおられたので、後見人と利用者の実際や必要性を学ぶ機会が持っている。	過去に入居者様で成年後見制度を受けていた方がおられたので、後見人と利用者の実際や必要性を学ぶ機会が持っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人やご家族と事前に面談をし、十分な説明を行っている。疑問な点はないかこちらよりお尋ねし理解・納得を頂いたうえで入居して頂いている	入居前には、入居者ご本人やご家族様と事前に面談をし、十分な説明を行なっている。また、疑問に思う点はないかもこちらからお尋ねし理解・納得を頂いた上で入居して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内にご意見ボックスを設け、直接言いづらいご意見などを承り、運営に反映させる取り組みを行っている。また、利用者からの細かい指摘があった場合でも、ご意見として承りスタッフ間で情報共有し、ケアの統一、向上につなげている。	ホーム内にご意見ボックスを設け、直接言いづらいご意見などを承り、運営に反映させる取り組みを行なっている。また、入居者様からの細かいご指摘などがあつた場合でも、ご意見として承り、スタッフ間で情報共有し、ケアの統一、向上に繋げている。	職員は日々の支援の中で入居者が発した言葉が意見として捉えられる場合や家族との面会時、電話連絡時に聞き取った意見を申し送りノートに残し、全職員と情報共有を図っている。聞き取った内容が苦情であった場合は苦情処理として記録し、その後、今後の取り組みについて話し合い、支援の統一を図り、運営に反映させている。	第三者(外部)評価受審状況を重要事項として家族等に説明することが求められており、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように、第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、家族への説明時には評価受審に合わせて家族アンケートを実施する旨を伝え、家族の意見をくみ取る機会となることを説明して運営に活かすことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設代表者は、毎日ホームに来所しスタッフや入所者と気軽に話し状況把握している為、意見吸い上げの機会は日常的である。また年に一回の個別職員面談も実施している	施設代表者は、毎日ホームに来所しスタッフや入所者と気軽に話し状況把握している為、意見吸い上げの機会は日常的である。また年に一回の個別職員面談も実施している	毎月のスタッフ会議にて職員が意見を表明したり、日頃から代表者や管理者とコミュニケーションをとり職員の意向の把握に努めている。日々の入居者との関わりの中で気づいた点があれば各自が意見を出して話し合い、実践に結びつけることで職員の意欲を更に引き出し、入居者個別の支援とサービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設代表者は日頃から職員とのコミュニケーションを行っており、メンタル面での支えている。また年に一度職員個人目標を定め、施設代表者と面談を行い仕事の意欲を向上するような指導を行っている	施設代表者は日頃から職員とのコミュニケーションを行っており、メンタル面での支えている。また年に一度職員個人目標を定め、施設代表者と面談を行い仕事の意欲を向上するような指導を行っている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設代表者は、職員個々に必要と思われる、内外の研修参加の積極参加を推進し、スキルアップの機会を進めている。教育委員会があり定期的に研修の場がある。	施設代表者は、職員個々に必要と思われる、内外の研修参加の積極参加を推進し、スキルアップの機会を進めている。教育委員会があり定期的に研修の場がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の4つ連絡協議会(県、島原半島、雲仙市、介護支援専門員)に加入しており、日頃から連携を図り、定期会議を行い、研修の実施をしている	同業者の4つ連絡協議会(県、島原半島、雲仙市、介護支援専門員)に加入しており、日頃から連携を図り、定期会議を行い、研修の実施をしている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に事前に職員2名で面談へ伺い、困っていること等の聞き取りを行い、コミュニケーションや情報収集を行うことで本人との関係づくりに努めている。	入居される前に職員2名で事前に面談へ伺い、コミュニケーションや情報収集を行なう事で、ご本人が困っている事を把握し、解消できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前に面談をさせて頂いている。サービス利用状況やご家族様の不安やご苦労されている事、要望などをお聞きし、ご希望に添える様にご提案をさせて頂き、良好な関係作りに努めている。	入居される前に、事前に面談を行なう事でご家族の不安に思っている事や要望をお聞きしている。ご希望に添える様にご提案をさせて頂く事で、良好な関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の気持ちを第一に考え、状況を確認し、ご希望に添えるように努めている。また、他にどのようなサービスがあるのかを視野に入れて、ご本人様に合った支援を行っている。	ご本人とご家族のお気持ちを第一に考え、状況を確認しご希望に添えるように努めている。また、他にどのようなサービスがあるかを視野に入れて、ご本人様に合った支援を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性や生活歴を大切にご自分が出る事は可能な限りご本人にしている。出来ない事はサポートを行う。共に寄り添った暮らしを行える信頼関係作りに努めている。	職員は入居者様一人ひとりが役に立てる喜びや、生きがいとなる事を見つけ、そのことを実践してもらう事で、感謝される喜びや生きがいを感じて頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のご家族の絆を大切に些細な事でも報告、相談し、時には一緒にケアを行いながら共に本人を支えている。ご家族の想いを大切にしながら連絡、相談が円滑にできる関係作りに努めている。	ご家族には、日常の様子を手紙や電話でこまめに報告し、コミュニケーションが取れるように働きかけている。スマートフォンやタブレットを活用し、動画を送信したり、リアルタイムな様子をお伝え出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は積極的に支援していたが、コロナ禍で直接的な交流が困難な状況が続いた。電話や、馴染みの場所をドライブする等、工夫していたが、現在少しずつ以前のような支援が出来るようになってきた。	入居者が馴染みの方と手紙のやり取りや、電話連絡などがスムーズに行なえるように、支援できている。いつでも気軽に訪ねて来られるので、良好な関係が維持出来ている。入居者のこだわりや大切にされている事も把握し、ケアに繋がられている。	ホームでは入居時に本人や家族から以前の生活歴や馴染みの関係について聞き取り把握している。コロナ禍前は、墓参りや行きつけの美容室等、馴染みの場所との関係継続の支援を行っていた。今後は馴染みの人や場との関係継続の支援を再開する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し座席を考慮したり、職員が会話の橋渡しを行い孤立しないよう支援している。	利用者同士が楽しく会話出来るよう座席を考え、耳が遠い方にはスタッフが間に入り他者との関係作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終えてもこれまでの関係性を大切にしている。その後の近況を電話でお話したり、退去後、ご家族が以前と変わらず野菜を届けてくださるなど、交流を続けている。	退居後、近隣施設に入居された方に会いに行く機会を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしで寄り添い想いを聴く、言葉にならない想いも行動、表情から心の耳で想いを汲み取り会議や申し送り等で共有し実現できるよう話合っている、困難な場合はご家族とも相談し検討している。	入居時のアセスメント分析をして状態や表情から思いや意向をくみ取り本人らしさが出来るよう支援している。困難な場合はご家族からうかがってご本人らしい生活の支援に努めている。	入居時に把握した生活歴や日頃の入居者との会話の中で思いを汲み取り、その人らしい生活が送れるよう本人本位に検討し、支援している。また、家族の意向を聞き取り、本人や家族の思いを職員間で共有して話し合いながらサービスの提供に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から生活歴を聞かせていただき、個々の大切にしてくださいました事を職員間で共有し、安心してその人らしい生活が送れるよう努力している。	ご本人、ご家族とコミュニケーションの中で、情報収集をし、これまでの習慣など把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの心身状態を把握し小さな変化もその度職員間で情報共有、記録に記入するなど行い現状把握し同じ関わりで対応できるよう努めている。又、PTの助言を受け体力向上に努めている。	居室で休みたい方、自室でテレビを観たい等、個々に応じて生活出来ている。介護記録や主治医、訪看と連携し異常時の早期発見、早期治療も出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、会議を行い個々の入居者の状況について話し合いをしている。課題については本人・家族・医師・看護師とも話し合い、現状に合うようにケアプランを作成している。	毎月のミーティングの際、利用者の個々の状態等確認し支援方法を話し合っている。本人の希望を活かすつづ家族に相談し、その時の状況、状態に合わせ介護計画を作成している。	毎月の職員会議の中で介護計画の見直しに関する入居者の目標達成度や、今後の目標について話し合い、入居者一人ひとりの心身状況に応じたサービス内容を検討し、計画作成担当者が原案を作成している。サービス内容に沿った支援を実践できるよう日々記録に残し、目標達成度を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に残すようにしている。特に気づきや変化は詳しく記入するようにし、申し送りノートなどで更に共有している。また、月1回の会議でケア方法の実践評価・見直しを行っている。	介護記録を活用し、必要に応じて口頭でも情報共有を行ない、ミーティングで話し合いその時に応じたケアを行ない、その後の介護計画の見直しに利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望には、できる限り応えられるようにしている。例えば、外出が難しい遠方の家族の方の要望に応えタブレット等を使用し面会を行ったり、地域の方の台風時の一時避難としてショートステイを受け入れるなどサービスの多機能化に取り組んでいる。	何気ない日常での会話の中で食べたい物、季節に応じた行事を一人ひとりが、楽しみを持って頂けるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グルプホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グルプホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の地域の産物や行事を把握し、外出できない分懐かしいものをネットで購入したりし会話に取り入れるようにしている。また、こちら側からアプローチを仕掛け、訪問カットを受けたりと支援している。	コロナ禍で、外出が制限されてる中、少しでも地域の方と関わりが持てるよう訪問カットを利用したり、地元産の野菜などを購入する事で会話が広がったり、地域との関係を絶やさないように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尋ね、母体の医療機関やかかりつけ医・眼科・歯科等適切な医療を受診出来るよう支援している。	ご本人やご家族に希望を尋ね、母体の医療機関の他、眼科や歯科等の専門機関への受診も出来るよう支援している。	入居者や家族の希望により入居前のかかりつけ医の受診を継続したり、母体病院を主治医とする等、柔軟に対応を行っている。入居者は母体病院の医師による毎月の訪問診療を受診したり、毎週、訪問看護師による健康管理を受けることができる。他科受診については家族の協力を得ながら入居者の心身状態に応じた受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師と連携し健康チェックを受けられるようにしている。状態に変化がある際は情報を共有して助言をいただき、必要時は早期受診を行っている。	週に1度、訪問看護師が来所し健康チェックを受け各入居者の状態を伝えアドバイスを頂いている。また、いつでも老健の看護師、訪問看護ステーションの看護師に相談できる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の連携室と密に連絡をとり、情報交換を行っている。必要な場合は医師と、現状や退院後のケアについて相談、指導してもらう場を設けて頂いている。	利用者が安心して治療出来るように、病院の連携室をはじめ、看護師と施設職員で情報を共有している。退院時は状態を確認し情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方へ当ホームの看取りの方針・体制を説明し納得のもと同意書を頂くようにしている。状況が変わる際には、その都度本人・家族の意見を尊重し主治医を交えながら、その人らしい最期を迎えられるよう支援している。	入居時に終末期やリビングウィルのついてご家族から同意書を頂いている。また、変更がある場合はその時点で意向を確認している。ご本人・ご家族の意思を尊重し、ゆったりとした生活をして頂けるようにユニット内で共有し取り組んでいる。	入居時にホームの看取り方針等を家族に説明し、同意書にサインを得ている。主治医の看取り期判断後、再度家族の意思を確認し支援している。家族の希望と主治医の指示により訪問看護師の協力を得ている。主治医や家族、職員が本人に寄り添ったその人らしい最期を迎えることができるよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や勉強会を定期的に行い、急変時の対応・感染症等に対する処置を学び訓練を行っている。事故発生や災害を想定して実践訓練も行うようにしている。	研修会や勉強会を定期的に行い、急変時の対応・感染症等に対する処置を学び訓練を行っている。事故発生や災害を想定して実践訓練も行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	自主避難訓練を3ヶ月に1回・消防立ち合いの避難訓練を年に1回実施するようにしている。マニュアルに沿って他職員・消防機関・地域の方々と連絡が執れるようにし迅速な対応が出来るようにしている。	自主避難訓練を3ヶ月に1回・消防立ち合いの避難訓練を年に1回実施するようにしている。また、コンセートのほこり、劣化など定期的に点検する事で火災予防にも努めている。	3か月に1回、自主避難訓練を実施し、昼間・夜間想定、地震による火災発生想定の実践訓練を実施している。地元消防団員によるホーム内の状況把握のため定期的な訪問があり、日頃からの協力体制を築いている。また、消火器を使用した訓練により全職員が初期消火ができる技能を身につけられるよう取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の話を傾聴し、訴え・要望を最後まで聴くようにしている。決して否定せず本人の意思を尊重し言葉かけを行っている。	排泄時など他利用者が気にされない様、努めている。手を止め、目を見て会話をしよう心掛け、傾聴し、お一人お一人に合った対応が出来るよう努めている。	職員は入居者一人ひとりとの会話の時間を大切に、傾聴する姿勢で関わっている。法人内の接遇委員会にはホーム担当職員が参加した後、ホームに持ち帰って研修内容について他の職員に資料を配布したり、内容を伝達し、職員全体で接遇についての意識を統一している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やおやつの際には、食べたいものなどを聴いたりして対応している。なかなか発語が上手くできない方へは選択できるよう提示したりして工夫している。	ご利用者にまずは要望を伺い自己決定出来るように働きかけている。一対一の会話を大切にしており、思いや希望をくみ取るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・おやつと時間の節目に声掛けを行なっているが、本人の体調・訴えに合わせ、各々に応じた生活リズムとなる様離床介助を心がけている。	自宅と変わらない生活ペースを大切にし、趣味や日課を取り入れ穏やかに生活できるよう支援している。他の利用者の趣味に誘うこともあるが、ご本人の気持ちを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は顔拭き、髪をくしでとく等支援し身だしなみを整えるようにしている。また、入浴の際や更衣の際は洋服を選択できるよう問いかけをしている。	起床時にホットタオルを使用し整容を行なっている。定期的に訪問カットに来て頂き、散髪を行なっている。誕生日会などのイベントで普段しないお化粧に喜ばれたり、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう季節の食材や、可愛い茶碗等を用いて視覚的にも楽しめるよう工夫している。また各々の嚥下状態に合わせ、食材の調理の仕方を変えたりと工夫している。	外食が出来なかったため、出前やファストフードなど、普段あまり食べない料理や、焼きそば会など色々な食事を施設内で楽しめるよう工夫した。味噌作りは恒例になっており、楽しみにされている。	食事は系列の介護老人保健施設の栄養士が作成した献立表を参考に、各入居者の嗜好やアレルギーに対応した食事を提供している。特に敬老会、夏場の卓上素麺流し、忘年会等、季節ごとの行事食や広告紙を見た入居者が食べたいと思うハンバーガーやピザ等も提供し、入居者が食生活を楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グルプホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グルプホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設老健の栄養科より献立メニュー情報を提供して頂き、それをもとに入居者の好み、食べやすいものを考慮しメニューを考案している。また、水分が少ない入居者には水分補給ができるようゼリーや、アイス等を作成し提供したりしている。	食事量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分の低下が見られたり、体調等を考慮して高カロリー食やゼリー等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し行うようになっている。自力にて口腔ケアが困難な入居者へは介助に入り、義歯ケアも行うようになっている。月1回は歯科衛生士へ介入して頂き、助言・指示をもらうようになっている。	自分で出来る方は自分で行ってもらっている。口腔内の状態を把握し、歯間ブラシやスポンジなど利用し仕上げ磨き行っている。月に一度、歯科衛生士より指導・助言をいただき、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄能力に応じたオムツ・パンツ・パッドの選択を行い対応している。本人の訴えがある際には介助に入り、訴えの少ない人は促しを行いトイレでの排泄ができるよう対応している。	出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。排泄チェック表から個々の排泄パターンを知り、声掛けパット交換を行なっている。自分でトイレへ行くが失敗のある方には、自尊心を傷つけないよう配慮しながら交換している。	居室にトイレが整備されており、居室のベッドの配置を考慮しながら、職員介助によるトイレでの排泄を支援しており、ポータブルトイレを使用している方はいない。入居者個々の排泄パターンに応じてパッド等のサイズを考慮すると共に、価格を比較して安価である業者を選定し、家族の負担軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、日頃の水分提供時に乳酸菌飲料の提供をしたり、食事の際は果物や食物繊維の多く含まれているものを提供したりしている。また、水分が摂れるようこまめな声掛けを行なっている。	水分量の把握や下剤の調整、ご本人の好みに合わせた飲み物の提供している。オリゴ糖やヨーグルト、ヤクルトや納豆を食べていただき自然排便している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や本人の調子に合わせて入浴できるよう声掛けをしており、その人にあった入浴法で清潔を保てるよう援助している。足趾の冷感がある方には足浴をしながらのシャワー浴、入浴できる方には入浴剤を使用しリラックスできるようにしたりと工夫して楽しめるようにしている。	本人のご希望に合わせて入浴して頂いている。入浴剤をお好みで選んでいただき、楽しみやリラックスしていただくよう支援している。シャワー浴の方は足浴を行ない、入浴した気分を味わっていただいている。	入浴は入居者一人あたり週2回以上と決め、毎日入浴の準備を行っている。入浴剤を使用したり、入居者の入浴ごとに湯を交換し、清潔保持に努めている。湯温や入浴の順番といった入居者の希望にも対応し、入浴を楽しめる支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて体の負担の無いように日中静養時間を設けている(外出時、活動後、入浴後など)夜間は良眠できる環境作りに努めている。	状況をみて臥床時間を設けたり、介助が必要な入居者様には、座りっぱなしにならないようにベッドに休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用ファイルにより全職員が分かりやすいよう管理されている、薬の変更時にはご本人、ご家族にも伝えスタッフ間での情報共有や主治医との連携を図るよう努めている。	排便、皮膚状態、食事摂取量、体調や行動の変化があれば、1回/週の訪問看護指導や1回/月の診療内科の往診、主治医に報告・相談し指示を受け対応出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事などに参加し、日々の暮らしが楽しく張り合いのあるものになるような環境作りや役割を提供し、気分転換などの支援をしている。	ご本人に合った役割を持っていただき、意欲を出して頂けるようなアプローチを行っている。また、苦手な事も一緒に行い楽しみながら行えるよう支援している。カラオケをしたり、編み物をしたり以前からの趣味を継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に添って外食やドライブなどで気分転換を務めていたが、コロナ禍で制限がある為、病院受診の帰りに売店で買い物をしたり、遠回りしてドライブしながら帰る等工夫した。	コロナ下で外出が制限されているため、施設内の行事やレクを増やし対応している。天気がいい日は施設内を散歩する等、屋外に出る楽しみも取り入れている。	コロナ禍で外出支援の実施が困難であったが、最近では入居者の誕生日に食べたいものを聞いて外食支援を実施した。今後は紅葉を楽しめるようドライブに出かける計画を立てる等、徐々に外出する機会を増やして行く予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	細かな買い物などは、ご本人の希望や力の応じてご本人が支払えるよう援助している。預り金がありグループホーム管理となっている。	本人のご希望があれば、ご家族と相談し少量の額を本人に管理して頂いている。買い物などで自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や必要に応じ職員が繋ぎいつでもお話できるようにしている、テレビ電話も取り入れながらコミュニケーションを図れるように支援している。	ご本人の希望があれば、いつでも電話を繋ぎ会話して頂いている。声を聞いて安心されている。携帯電話を持たれている方は、いつでも自由に連絡を取られている。手紙のやり取りをされたい方へは必要な支援をその都度行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には居心地よく安心して過ごして頂けるようにソファや椅子を設置している、又、テーブルには季節の花を飾り、壁には季節ごとに飾り付けを変え四季を感じられるよう工夫している。	個々の最適な温度・湿度を聞き取りながら、快適な環境を整えると共に、匂いがこもらないよう換気を行っている。四季を感じて頂けるように壁面や手作りの作品を飾っている。	入居者各々が居心地よく過ごせるよう共有空間にはソファや椅子を設置し、ゆったりとした居住環境作りに努めている。壁には季節を感じる事ができる装飾画等を飾られたり、朝昼夕には換気をして新鮮な空気と入れ替え、入居者が気持ちよく日々を送れるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホーム椿高野)	実践状況(ユニット名:グループホーム山椿)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の状態の変化や入居者の関係性を顧慮し、テーブル席を配慮している。廊下や玄関、テラスには椅子やベンチを置き場所を移動してもゆっくり落ち着いて過ごせるよう支援している。	いつでも自由に手に取れるよう新聞や雑誌を共有スペースに置き、閲覧して頂いている。管理棟に自由に行き、ゆっくり過ごして頂けるようソファを設置している。ソファで気の合う入居者様とおしゃべりしたり日向ぼっこをされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの入居者が安らぎを得るような馴染みの物、ご家族の写真や使い慣れた物が持ち込まれ居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。	ご家族との写真やメッセージ、馴染みの物など、ご本人やご家族の希望される物を居室に置いたり、飾ったりし、心安らげる空間作りを行なっている。	居室には入居者が入居前から使用していた馴染みのものが置いてあったり、家族の写真を飾ったり、一部屋一部屋が個性的な落ち着いた雰囲気のある居室である。家族とも相談しながら入居者が安心してホームでの生活を継続できるよう配慮された居室作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体状況に合わせて手摺の増設、家具などの配置の工夫をしたり、安全な環境作りに努め「できること」「できないこと」を活かしてできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の身体状況や動きに合わせて、相談しながら、行動しやすく分かりやすい環境作りを行なっている。リスクを想定し、安全に過ごせる空間を提供している。		